

6

「アートでまちを変える」を考えてみよう

地域の方々が、あるプロジェクトをきっかけに連携を深めていくことが、チームビルディングにつながり、地域の魅力を高める好循環を生み出す。という仮説。

今回は、アートをきっかけに、地域が抱える様々な「社会課題」を「魅力」に転換して、望む未来へとつなげていくための仮説について議論します。

「アート」や「まちづくり」に興味のある人たちが集まり、具体的なアクションへのきっかけとなる場を目指します。

SPEAKERS



明石 博之氏

場ヅクル・プロデューサー、グリーンノートレーベル株式会社 代表取締役

1971年広島県生まれ。多摩美術大学でプロダクトデザインを学ぶ。大学卒業後にグリーンノートレーベルに入社、2008年に代表取締役に就任。2010年に富山県へ移住。古民家をカフェにリノベした経験をキッカケに秘密基地的な「場」をつくる面白さに目覚めた。まちの価値を拡大する「場」のプロデュース・空間デザインを仕事の軸として、富山のまちづくりに取り組んでいる。富山県成長戦略会議まちづくり戦略PT 持続可能な魅力ある田園地域検討専門部会座長。



池田 親生氏

竹あかり演出家/CHIKAKEN共同代表

崇城大学を卒業後、三城賢士と共に「まつり型まちづくり」を基盤に竹あかりの演出制作・プロデュースを行うCHIKAKENを設立。熊本で2日間で20万人が集う竹あかりのおまつりみずあかりのデザイン、制作指導。他、伊勢志摩サミットG7の夕食会場の装飾、世界一の奇祭とも言われるアメリカネバダで行われるバーニングマンにもアーティストとして招集される。国内外問わず竹あかりを通して日本の美を伝えている。



坂東 法子氏

家印株式会社、みらいまちラボ ホスピタリティ・マネージャー

富山県高岡市生まれ。高校卒業後に上京。香港の航空会社の客室乗務員として13年間の勤務を経て、2020年夏に富山へUターン。同年、とやま観光未来創造塾グローバルコース修了。現在は朝日町を拠点に、建築設計・施工や地域活性に取り組む家印株式会社のスタッフや、みらいまちラボのホスピタリティ・マネージャーを務める。富山県成長戦略会議まちづくり戦略PT委員。



松田 崇弥氏

株式会社ヘラルボニー 代表取締役社長

代表取締役社長。小山薫堂が率いる企画会社オレンジ・アンド・パートナーズ、プランナーを経て独立。4歳上の兄・翔太が小学校時代に記していた謎の言葉「ヘラルボニー」を社名に、双子の松田文登と共にヘラルボニーを設立。異彩を、放て。をミッションに掲げる福祉実験ユニットを通じて、福祉領域のアップデートに挑む。ヘラルボニーのクリエイティブを統括。東京都在住。双子の弟。世界を変える30歳未満の30人「Forbes 30 UNDER 30 JAPAN」受賞。2022年、「インパクトスタートアップ協会」(Impact Startup Association)の理事を務める。著書『異彩を、放て。「ヘラルボニー」が福祉×アートで世界を変える』。